

## 遊川我有 —はじめにかえて—

川を相手に遊び戯れると、人は自分らしさを取り戻す。人が川を遊び続けると、川も自分らしさを取り戻す。悠々と時を過ごす恵みは、感情を豊かにふくらませる。風の環のすこやかさは、必ずや創造的気風を生む。川の景を愛することは自ずから人々に詩心を生む。

\*

「川の日」ワークショップの公開審査全体にわたって、このような気分を参加者間で分かち合うことができた。これを漢詩4行詩風に表現しなおすと、

遊 川 我 有  
恵 遊 情 感  
環 風 必 創  
景 愛 生 詩

となる。

漢詩は縦に読むもの。そこで、縦にも読んでみよう。

「フィーリングがふくらむところに詩（うた）がつくられる。

自分らしい感情が必ず生まれ高まる。

川と悠々と関わりつつ、目に見えない恵みを愛する。

川の恵みと戯れつつ、人と川の環の風景に出会う。」

と、それなりに意味あるフレーズが生まれてくる。

ついでに斜めにも読んでみると（まず左上から右下へ、そして右上から左下へ）、

「川と悠々と遊ぶことは、詩心を人々の中に生み出す。

川への情が高まれば心地よい風の景色がたち現れる。」

あっ、斜めもイケる、と我ながら驚く。

そうだ！河川への市民と行政の多様な参画と実践は、「たて・よこ・ななめ」の自由感覚こそいちばん大切なのだと痛感させられる。

「川の日」ワークショップは、河川整備に、治水・親水のための reasonable な（筋道立った）理性的技術の世界に加えて、人々がじかに河川に関わることによる心楽しいワクワクの感覚・感情・感性的世界の両面の精妙なつながりをもたらしている。「ワクワク&リーズナブル」という21世紀に全ゆる領域で待たれている認識・実践の方法を河川の分野はいち早く掌中にしようとしている。

千葉大学工学部都市環境システム学科教授  
「川の日」ワークショップ・総合コーディネーター  
延藤 安弘